りょうかわ

学校だより　令和元年7月2日号　新潟市立両川小学校

学級の居心地は一人一人の心掛け次第

校長　　中村　雅芳

７月になりました。今年度が始まって３か月が過ぎ，４か月目に入りました。様々なことを経験して，子どもたちはそれぞれ大きく成長しました。その手応えをうれしく思うと共に，もっともっと成長してほしいと思い，昨日の全校朝会で，子どもたちには次のようなお話をしました。

今月の生活目標は**「生活を見直そう」**です。この目標には２つの意味があります。

一つは，おうちでの生活です。お父さんやお母さん，おじいちゃんやおばあちゃんから注意されることはありませんか？おうちの中での自分の役割を，あなたは果たしていますか？そんな点からおうちでの生活を見直し，改めていきましょう。

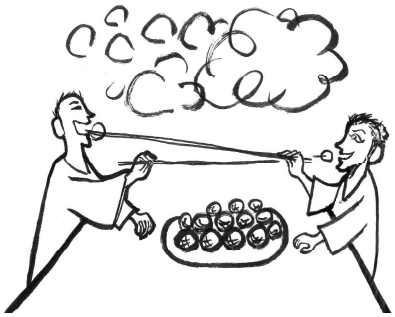
もう一つは，学校での生活です。４月「明るい挨拶をしよう」５月「話の聴き方名人になろう」６月「時間を守って行動しよう」でした。「挨拶」「聴くこと」「時間」どれもがお互いに気持ちよく生活するために必要なものです。この３つについて，誰とでも明るく挨拶を交わしている，相手の話をよく聴いている，時間を守って行動していると，自信をもって「できてます！」と言える人，手を上げてください。‥残念ながら手が上がらなかった人，心掛け次第です。あなたの気持ち一つでよくなります。改めていきましょう。

校長先生が，学校での生活でもってほしいもう一つの視点は，一人一人が感じている「学級の居心地」です。みなさん，自分の学級は居心地がいいですか？最高です！と誰もが言えますか？あえて聞きません。多分，不満をもっている人はいると思います。大勢で生活しているのですから，居心地が悪い人がいても不思議ではありません。大事なことは，そういう人を減らすために，一人一人が仲間の心の中を想像して，自分のできる努力をすることです。

仏教の教えに，次のようなお話があります。

「地獄」と書いてある門をくぐるとごちそうをのせたテーブルがあり，その周りで地獄に住んでいる人たちが背丈ほどもある長い箸で食べようとしていました。しかし箸が長すぎて，自分の口には入りません。他の人に取られまいと，もの凄い形相をして食べようとするのですが，一口も入らないのです。不満でいっぱいな人たちはいつも睨み合い，そして，いつもお腹をすかせているのでした。

【奪い合えば地獄】



【分け合えば極楽】

一方「極楽」と書いてある門を入ると，ここでも地獄と同じように，長い箸で食べなくてはいけないようになっていました。しかし，不思議なことに，人々は楽しく，和やかに食事をしています。なぜならば，自分のお箸でつかんだごちそうを，お互いに，向かい側の人の口に，入れてあげていたからです。極楽に住んでいる人たちは，相手のことを思いやるが故に幸せが訪れ，いつも，お腹一杯なのでした。

条件は同じでも，相手のことを考えて行動できる人がたくさんいると，その場所は「極楽」となり，自分のことしか考えない人たちがたくさんいる場所は，「地獄」となる。つまり，地獄と極楽とは，場所の違いでなく，そこにいる人の心掛けで決まるのだという例え話です。

このお話を自分が生活している学級に当てはめて考えてみましょう。例えば，相手の気持ちなど想像せずに，ふざけてたたいたりしている人はいませんか。例えば，仲のいい友達だけで行動して，それ以外の人の気持ちなど無視していたりする人はいませんか。例えば，周囲の人がどう感じるかも考えず，自分の感情をあらわにしている人はいませんか。

先ほど言った「学級の居心地」は，学級内で生活しているみなさん一人一人の心掛けによって全く違ってくるのです。まずは，自分から動くことです。相手の気持ちを想像して，行動してみることです。不平不満を言ったところで何も変わりません。あなた自身の行動が問われるのです。全員が相手の気持ちを思いやって行動すると，「学級の居心地」は最高になるはずです。夏休みまであと約３週間。みんなできるかな？期待しています。

学校生活のみならず，集団生活全てに当てはまる大事なことだと考えます。どうか，上記のことに触れて，おうちでもお子さんとお話をしてみてください。